

令和 8 年度 全国学力・学習状況調査結果と分析

武蔵野市立第三中学校
校 長 竹山 正弘

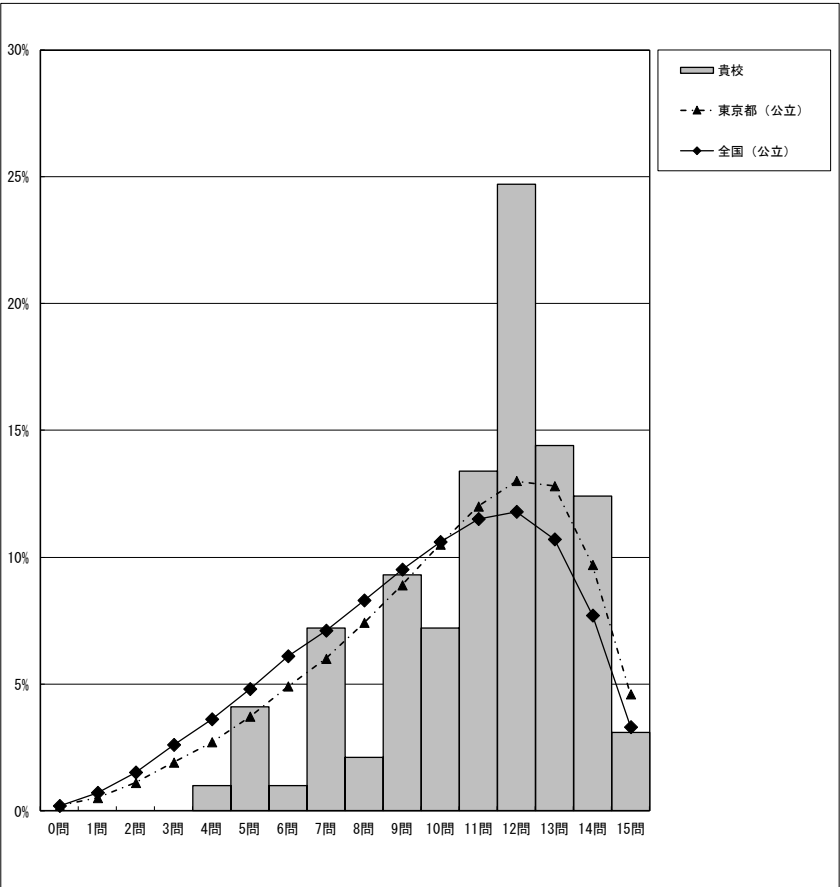
令和 8 年度全国学力・学習状況調査
調査結果概況 【国語】
武蔵野市立第三中学校一生徒

中学校調査

・以下の集計値／グラフは、4 月 2 3 日に実施した調査の結果を、生徒を対象として集計した値である。
※ただし、4 月 2 3 日に調査を実施していない学校については、4 月 2 4 日以降 4 月 3 0 日までに実施した調査の結果を集計した値とする。

	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
武蔵野市立第三中学校	97	11.1 / 15	74	12.0	2.5
東京都（公立）	69,243	10.1 / 15	68	11.0	3.2
全国（公立）	841,873	9.6 / 15	63.9	10.0	3.3

正答数分布グラフ（横軸：正答数 縦軸：割合）



正答数集計値				
正答数	生徒数	割合 (%)		
	本校	本校	東京都 (公立)	全国 (公立)
15 問	3	3.1	4.6	3.3
14 問	12	12.4	9.7	7.7
△ 13 問	14	14.4	12.8	10.7
◇ 12 問	24	24.7	13.0	11.8
11 問	13	13.4	12.0	11.5
▽ 10 問	7	7.2	10.5	10.6
9 問	9	9.3	8.9	9.5
8 問	2	2.1	7.4	8.3
7 問	7	7.2	6.0	7.1
6 問	1	1.0	4.9	6.1
5 問	4	4.1	3.7	4.8
4 問	1	1.0	2.7	3.6
3 問	0	0.0	1.9	2.6
2 問	0	0.0	1.1	1.5
1 問	0	0.0	0.5	0.7
0 問	0	0.0	0.2	0.2

※今回の調査での四分位は以下の通りでした。

	本校	東京都 (公立)	全国 (公立)
△ 第 3 四分位	13.0 問	13.0 問	12.0 問
◇ 第 2 四分位	12.0 問	11.0 問	10.0 問
▽ 第 1 四分位	10.0 問	8.0 問	7.0 問

【傾向と分析】

令和 8 年度に実施された国語の学力調査において、本校の平均正答率は 74% となり、全国平均（63.9%）を上回る結果となった。都平均（68%）と比べても上回る結果となっており、全体として安定した成果が見られた。特に、全体の約 2 分の 1 以上の生徒が 12 問以上正答しており、文章の読み取りや言葉の理解など基礎的な力をしっかり身につけている様子が見られる。

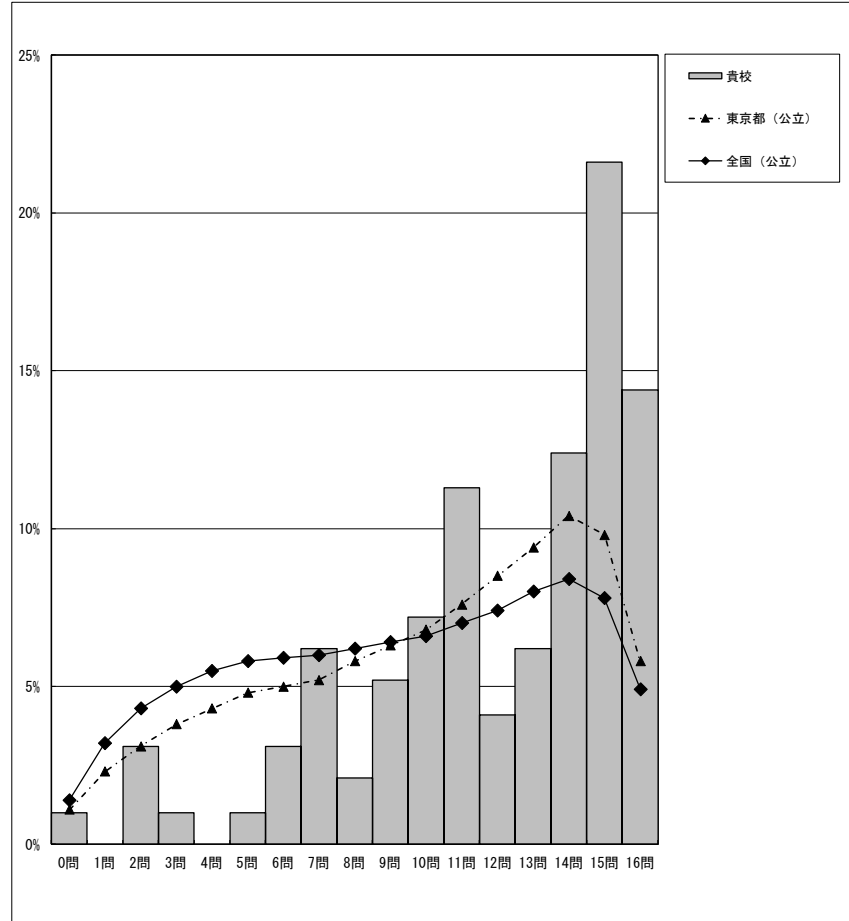
【改善に向けた取組】

中間層及び上位層に対しては、発展的課題への挑戦を促し、記述力や批判的読解力を育む課題を通じて、さらなる学力向上を図る。また、低得点層へは、基礎力の強化のため、語彙・文構造の理解を中心とした指導をするとともに、音読などの活動を通じて、読解の土台の強化を図る。

・以下の集計値／グラフは、4月23日に実施した調査の結果を、生徒を対象として集計した値である。
※ただし、4月23日に調査を実施していない学校については、4月24日以降4月30日までに実施した調査の結果を集計した値とする。

	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
武蔵野市立第三中学校	97	11.9 / 16	75	13.0	3.8
東京都(公立)	69,279	9.9 / 16	62	11.0	4.3
全国(公立)	842,491	9.1 / 16	57.0	10.0	4.5

正答数分布グラフ(横軸:正答数 縦軸:割合)



正答数集計値				
正答数	生徒数	割合(%)		
	本校	本校	東京都(公立)	全国(公立)
16問	14	14.4	5.8	4.9
15問	21	21.6	9.8	7.8
14問	12	12.4	10.4	8.4
13問	6	6.2	9.4	8.0
12問	4	4.1	8.5	7.4
11問	11	11.3	7.6	7.0
10問	7	7.2	6.8	6.6
9問	5	5.2	6.3	6.4
8問	2	2.1	5.8	6.2
7問	6	6.2	5.2	6.0
6問	3	3.1	5.0	5.9
5問	1	1.0	4.8	5.8
4問	0	0.0	4.3	5.5
3問	1	1.0	3.8	5.0
2問	3	3.1	3.1	4.3
1問	0	0.0	2.3	3.2
0問	1	1.0	1.1	1.4

※今回の調査での四分位は以下の通りでした。

	本校	東京都(公立)	全国(公立)
△ 第3四分位	15.0問	14.0問	13.0問
◇ 第2四分位	13.0問	11.0問	10.0問
▽ 第1四分位	10.0問	7.0問	5.0問

【傾向と分析】

本校生徒の平均正答数は11.9問(16問中)、平均正答率は75%であった。これは東京都平均(9.9問、62%)、全国平均(9.1問、57%)を大きく上回る結果となった。一方で、基礎的な内容の定着に課題がある生徒も一定数確認された。以上のことから、本校の数学における学力は全体として高い水準にあり、特に上位層の成果が顕著であるが、基礎的な内容の理解に課題のある生徒への支援が必要であると考える。

【改善に向けた取組】

上位層へは、応用的な課題や発展的な内容を取り入れ、思考力・表現力を育成する授業を継続していく。中間層に対しては、復習を中心とした演習やグループ学習等を通じて、理解の深まりと定着を図る。下位層に対しては、少人数指導の特性を生かし、生徒一人一人の基礎力の定着に向けた教材の提示と支援を行う。

・以下の集計値／グラフは、次の実施日に実施した調査の結果を、生徒を対象として集計した値である。
4月20日～4月24日（英語3技能「聞くこと」「読むこと」「書くこと」） 4月24日～5月29日（英語「話すこと」）
（「全国（国公私立）」の値は、統計的に抽出され、英語4技能を当日に実施した学校の生徒の結果を集計したもの。）
※ただし、英語3技能「聞くこと」「読むこと」「書くこと」において4月20日から4月24日に調査を実施していない学校については、4月27日以降5月1日までに実施した調査の結果を集計した値とする。

平均正答数集計値

	生徒数	平均正答数	標準偏差
武蔵野市立第三中学校	94	5.8 / 9	2.2
東京都（公立）	66,020	5.1 / 9	2.4
全国（国公私立）＊	46,645	4.5 / 9	2.5

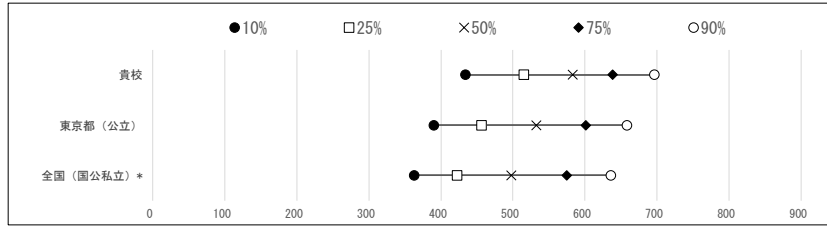
技能別平均正答数集計値

	聞くこと	読むこと・書くこと	話すこと
武蔵野市立第三中学校	1.4 / 2	3.6 / 5	0.8 / 2
東京都（公立）	1.3 / 2	3.0 / 5	0.8 / 2
全国（国公私立）＊	1.2 / 2	2.6 / 5	0.7 / 2

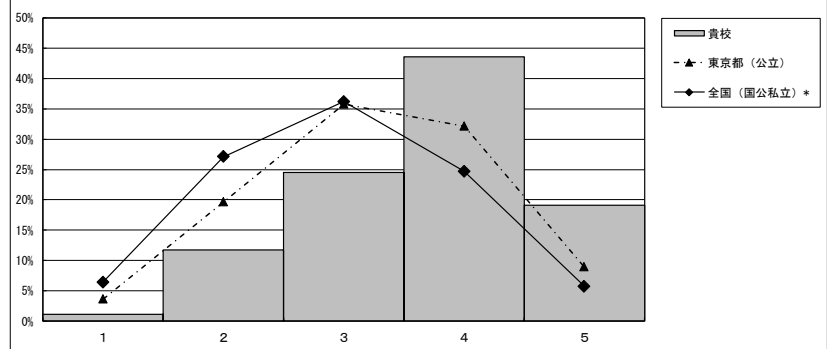
IRTスコア集計値

	平均IRTスコア	標準偏差	パーセンタイル値				
			10%	25%	50%	75%	90%
武蔵野市立第三中学校	576	99.1	434	515	583	638	696
東京都（公立）	529	108.3	390	456	532	601	658
全国（国公私立）＊	499	108.1	363	422	498	575	636

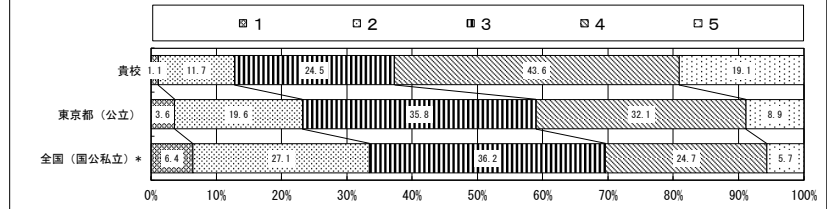
IRTスコア分布グラフ（パーセンタイル値：10%、25%、50%、75%、90%）



IRTバンド分布グラフ（横軸：IRTバンド 縦軸：割合）



IRTバンド分布比較



IRTバンド集計値

IRTバンド	生徒数	割合（％）		
		本校	東京都（公立）	全国（国公私立）＊
5	18	19.1	8.9	5.7
4	41	43.6	32.1	24.7
3	23	24.5	35.8	36.2
2	11	11.7	19.6	27.1
1	1	1.1	3.6	6.4

※IRT（Item Response Theory：項目反応理論）とは、単なる正答数ではなく、問題の難易度や識別力を考慮して算出される学力指標で、得点の高さだけでなく、どのような問題に正答したかをもとに、より精緻に学力を測定することができる。

【傾向と分析】

本校生徒の平均正答数は 5.8 問（9 問中）であり、東京都平均（5.1 問）を上回る結果となった。「読むこと・書くこと」および「聞くこと」で高い成果が出ており、基礎的なインプット・アウトプット力が定着している。一方で「話すこと」の平均正答数は 0.8 問（2 問中）にとどまり、都平均と同水準ではあるものの、他技能に比べると得点率が低く、発信力・即興的な表現力に課題が見られる。標準偏差は 2.2 で、都平均と同程度であることから、得点のばらつきは平均的であると考えられる。

IRT スコアにおいても、本校平均は 576 と、東京都（529）および全国（499）を上回っている。パーセンタイル値においても、50%値（中央値）が 583 と高く、全体として安定した学力分布を示している。さらに、IRT バンド分布では、バンド 4・5 の生徒が 62.7%を占めており、東京都（41.0%）や全国（30.4%）と比較しても高い割合となっている。

【改善に向けた取組】

授業内にペアワークや個別スピーキング活動を積極的に取り入れ、即興で自分の考えを話す機会を増やし、スピーキング・パフォーマンステストの拡充を図る。

バンド 1～2 に属する生徒（約 13%）に対しては、チャレンジスタディや小グループ指導等を通じた基礎定着フォローを行い、学力層に応じた個別の指導支援を充実させ全体のボトムアップを図る。

「読む・聞く」で得た情報をもとに「話す・書く」へ繋げるタスク型学習を強化し、発話に対する心理的ハードルを下げる指導を展開し、4 技能統合型の授業を実践する。